

選考経過（環境貢献賞）

環境貢献賞の審査は書類選考（1次審査）、オンラインによるプレゼンテーション(2次審査)の2段階で実施している。本年は応募2件のうち1次審査を通過した1件について、プレゼンテーション（発表者はオンラインで出席）と質疑応答を実施した。最終選考会議では、資料を縦覧した後、全委員での議論と投票を行った。なお利害関係のある委員は投票を棄権し、棄権者のある回の投票は他の投票者の点数を按分することで不公平の出ないように配慮した。以上の経緯を経て、第3回の環境貢献賞を授与する対象は無いと判断するに至った。

プレゼンテーションを行ったが最終選に至らなかった1件については、仮設膜構造の木材を返却し、膜材の繰り返し利用が可能といった点だけでは、環境貢献の取組として特筆するには弱いとの評価が多く選外となった。

表彰委員長 川口健一